

科目名称	在宅看護方法論Ⅱ（訪問看護技術）	学年学期	単位数	時間数
		2 学年 後期	1	30
担当教員	大北米香	授業に関わる実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

対象に応じた在宅看護を展開するために、在宅で生活する対象の日常生活をアセスメントするとともに、各看護学領域や基礎分野・専門分野で学んだ知識・基礎看護技術を統合し、在宅場面で実践する日常生活援助技術および医療管理を必要とする援助技術について学ぶ。

【2】学習目標

1. 在宅看護の基本となる、コミュニケーション技術・面接技術について説明できる。
2. 在宅看護に必要な日常生活援助技術について、アセスメントおよび援助の要点を説明できる。
3. 在宅看護に必要な日常生活援助の基礎技術を習得できる。
4. 在宅看護に必要な、各種の医療管理を必要とする援助技術の要点を説明できる。
5. 在宅酸素療法の体験学習を通して、意義・管理方法・援助の要点を説明できる。
6. グループメンバーと協力して、在宅看護に役立つ介護用品を作製、使用し、評価・考察できる。
7. 在宅看護実施時の工夫点や介護用品活用の必要性和活用方法について考えることができる。
8. 在宅看護論の授業内容を振り返り、自己の在宅看護観と在宅看護論実習に臨む課題を持つことができる。

【3】第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	在宅看護を支えるコミュニケーション	講義
2	在宅看護に必要な日常生活援助技術(1)	講義
3	在宅看護に必要な日常生活援助技術(2)	講義
4	在宅看護に必要な日常生活援助技術(3)	講義
5	在宅看護に必要な日常生活援助技術(4)	講義
6	在宅看護に必要な日常生活援助技術(5)	講義
7	在宅看護に必要な日常生活援助技術(6)	演習
8	在宅看護に必要な日常生活援助技術(7)	演習
9	在宅における医療管理を要する人の看護(1)	講義・DVD
10	在宅における医療管理を要する人の看護(2)	講義・DVD
11	在宅における医療管理を要する人の看護(3)	講義・演習
12	在宅における医療管理を要する人の看護(4)	講義・演習
13	在宅における医療管理を要する人の看護(5)	演習
14	在宅における医療管理を要する人の看護(6) 訪問時のマナー	講義・演習
15	筆記試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験 75%，演習への取り組み状況 10%，提出課題 15%で総合的に評価する。

【6】教科書

河原加代子：系統看護学講座 専門分野 地域在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（第6版）医学書院 2022

【7】参考書

臺 有桂 他編：ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第7版）メディカ出版 2022

臺 有桂 他編：ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第2版）メディカ出版 2022

池西静江 編：看護学生スタディガイド 2022（第8版）照林社 2021

【8】受講生へのメッセージ

事例や体験を通して在宅看護における日常生活援助技術や医療管理を要する人の看護について学びます。